

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 小学校外国語活動における学びがつながることを目指した問いの工夫と振り返りの工夫を通して —

指導主事 深水 宏子

研究協力員 御船町立小坂小学校 教諭 金田 直子

1 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

新学習指導要領解説外国語編では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考え等を形成し、再構築すること」と示されている。さらに、「小学校における外国語教育においては、『外国語やその背景における文化を社会や世界、他者との関わりに着目して捉える』点を重視すべきである」とある。

このような見方・考え方を働かせるためには、コミュニケーションにおいて、「他者によりよく伝える」という目的意識や相手意識を持ち、試行錯誤しながらコミュニケーションを図る体験をさせることが有効だと考えた。また、今回取り入れた「読むこと」「書くこと」の活動においても、目的を明確にして英語を読んだり書いたりする単元構成を工夫することにより、見方・考え方を働かせる学習活動の充実が図られると考えた。

(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

外国語活動は、母国語ではない外国語を使って活動を行うため、「自分の考えや思いが表現できた。」「相手の言いたいことが理解できた。」など、コミュニケーションへの自信につながるような学びの成果を実感させることが大切である。さらに、他者に配慮しながら伝え合ったり、進んでコミュニケーションを図ろうとしたりする態度面の成長にも気付かせることが重要である。

そこで、学習活動において、振り返りの視点を明確に示すとともに、中間評価などで、教師が学びのよさを価値付け、児童の意識化を図ることとした。また、自己評価及び児童同士の相互評価を取り入れ

た振り返りの場を設定し、自ら気付くことが難しい態度面での変容についても客観的に振り返り、自他の成長を実感できるようにした。

2 研究の実際

検証 小学校第6学年

単元名 I like my town.

「御船町の未来予想図を発表しよう」

(1) 本単元の授業設計

① 児童の実態から

本児童は、昨年度から年間70時間の一部教科の内容を取り入れた外国語活動を経験している。H28年度熊本県学力調査意識調査結果では、「外国語活動（英語）は好きか」との質問に「好き、まあまあ好き」と回答している割合は、88.8%で、外国語活動に好意的な児童が多い。

前単元において、音声で慣れ親しんだ基本的な表現を用いて、夏休みの思い出を書く活動を経験している。「書くこと」について意欲的であるが、四線上に文字を正しく書き写すことや、語と語の区切りに注意して書くことなど、個人差が大きい。また、「読むこと」については、活字体で書かれた文字を識別したり、慣れ親しんだ語句を絵なども頼りにしながら読んだりしており、文字への興味・関心が高まっている。

② 単元観

本単元は、小学校新学習指導要領における第2の2内容(3)①言語活動に関する事項ア聞くこと(ウ)、イ読むこと(ウ)、エ話すこと「発表」(ウ)、オ書くこと(ウ)、(エ)を受け、自分が住んでいる御船町のよさや願いなどについて、伝えたいことを整理して発表することをねらいとしている。

今回、自分たちの住む御船町のよさだけでなく、将来どのような町にしたいかを考え、英語で発信する活動を設定する。聞き手に分かりやすく伝えることを目的とした一連の言語活動を通して、児童は、

コミュニケーションの楽しさや大切さを理解するだけでなく、地域への愛着や誇りを再認識することにもつながる。さらに、児童一人一人が御船町の未来の創り手として主体的にかかわっていかこうとする態度を育むことにもつながると考えた。

これらのことから、本単元における学習は、未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

③ 指導観及び研究の視点

ア 指導観

- 「Small Talk」を適宜設定し、既習表現などを活用した自己表現を体験させ、コミュニケーションへの意欲を高める。
- 発表で使用するポスター作成に向けて「書く」活動にスモールステップで取り組むとともに、音声で十分慣れ親しんだ表現を、書く作業を通して統合していく。

イ 研究の視点

(7) 研究の視点 1

- ① 具体的な課題を設定するとともに、既知の知識や経験を活用しながら相手意識を持ってコミュニケーションを図る体験をさせる。
- ② 目的を持って英語を書いたり読んだりする活動を通して、自分の考えを整理したり、必要な情報を得たりする体験をさせる。
- ③ 自分の伝えたいことを整理したり、それをより分かりやすく伝えるために練習したりする活動において、互いに助言し合う場を設定する。

(4) 研究の視点 2

- ④ 1 単位時間ごとに振り返りの視点を明確に示し、中間評価や振り返りカードの活用により、目標に沿って自他の学びを振り返ることができるようにする。
- ⑤ コミュニケーションを図ること得られた情報や、お互いの新たな発見など自分の考えの変容を共有する場を設定し、コミュニケーションの楽しさや大切さを実感できるようにする。

④ 単元の目標

単元の目標	○御船町にどのような施設があるのか、また欲しいのか、さらに地域のよさなどを表す表現に慣れ親しむとともに、書くことに慣れ親しむ。 ○御船町のよさや将来について自分の考えを伝え合おうとする。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	御船町のよさや将来どのような地域にしたいかについて、相手に伝わるように工夫して自分の考えを話したり、相手の考えを理解しようとして聞いたり言ったりしている。
外国語への慣れ親しみ	御船町にある施設やない施設、欲しい施設について聞いたり言ったりしている。また、例文を参考に書いている。
言語や文化に関する気付き	英語の書き方の規則に気付く。

⑤ 単元計画

単元のゴール：御船町のおすすめの場所や将来必要と思う施設について自分の考えを発表しよう

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 施設の名前の言い方を知る。 ○単元のゴールを知る。 ○施設や建物を表す英語に慣れ親しむ。	【慣】：観察、振り返りカード 【研究の視点1】 ① 単元終末の発表場面を示し、活動への見通しを持たせる。 【研究の視点2】 ④ 振り返りの視点を焦点化して振り返りカードに示す。
二	2	2 御船町にある施設、ない施設を表す表現を知り、自分の住んでいる地域を説明する。 ○We (don't) have~の表現に慣れ親しむ。 ○例文を参考に書く。	【慣】：観察、ワークシート 【研究の視点1】 ② 御船町の施設で表現したい語句を選び、例文を参考に書かせる。
三	3 4	3 御船町にある施設のよさについて、自分の考えを伝え合う。 ○It's~. We can~.の表現に慣れ親しむ。 ○例文を参考に書く。	【慣】：観察、ワークシート 【研究の視点1】 ① 御船町の施設のよさについて既知の表現も活用して自分の考えを表現させる。 ② 書く活動を通して自分の考えを整理する。
四	5 6	4 御船町に将来欲しい施設について、その理由も含めて表現する。 ○I want ~.を使い、御船町に欲しい施設を表す表現に慣れ親しむ。 ○例文を参考に書く。	【慣】：観察、ワークシート 【研究の視点1】 ① 御船町に欲しい施設とその理由を既知の表現なども活用して表現させる。 ② 書く活動を通して自分の考えを整理する。
五	7	5 自分の考えを整理して英文を書く。 ○御船町について紹介するミニポスターを作成し、発表準備をする。	【気】：観察、ポスター 【研究の視点1】 ② 書く活動を通して自分の考えを整理する。 ③ ポスター作成や発表練習で助言し合う。
六	8	6 ミニポスターを活用して、発表をする ○相手によりよく伝える工夫を考えながら伝える練習をする。 ○ミニポスターを見せながら発表し合う。 ○発表を通して感じたことや新たな発見などを共有する。	【コ】：発表、ポスター、振り返りカード 【研究の視点1】 ① 相手意識を持って発表させる。 ② 英文を読むことの達成感を味わわせる。 【研究の視点2】 ④ 中間評価で、相手意識のあるコミュニケーションのよさを共有させる。 ⑤ 相互評価により、コミュニケーションの成果を共有させる。

(2) 指導の実際（8／8時間）

過程	学習活動
ウォームアップ	1 英語であいさつをする。 2 復習をする。 ○前時の学習を振り返り、発話への意欲を高める。 
導入	3 本時の目標（めあて）を確認する。 学習目標（めあて） 御船町の未来予想図を発表しよう！ 4 Activity 1 : Practice ○相手によりよく伝える工夫について確認し、ペアによる練習で、助言し合う。 
展開	5 Activity 2 : Presentation (1) 教師のデモンストレーションを見て、活動のやり方や留意点を確認する。 (2) 発表する。 【研究の視点1①】 相手意識を持って発表させる。 【研究の視点2④】 中間評価を行い、相手意識を確認する。 ○聞き手は発表を聞いた後、発表者に感想を伝える。 評価：コミュニケーションへの関心・意欲・態度（発表、ポスター、振り返りシート） 自分が住んでいる地域のよさや将来の願いについて、相手に伝える工夫をしながら発表したり、相手の考えを分かろうとして聞いたりしている。 (3) ポスターを読み合う。 【研究の視点1②】 発表を聞くことができなかった友達のポスターを中心に作品を見合い、友達のことを知る機会とする。 (4) 発表の感想を伝え合う。 【研究の視点2⑤】 友達の発表内容についての気付きや発表の工夫について共有する。   
まとめ	6 学習したことをまとめ、振り返る。 (1) 振り返りカードに記入する。 【研究の視点2④】 本時の目標を確認し、視点を明確にして振り返りをさせる。 (2) 学んだことや感想を発表し合う。 ○単元を通して感じたことやコミュニケーションを図ったことで分かったことなどを共有し、次時への学習意欲を高める。

(3) 検証結果と考察

表1は、豊かな学びに関する変容について「学習活動の充実」と「成長の実感」の2つの観点で調査した質問紙調査の結果である。

以下、本実践の検証結果との関連について研究の視点を踏まえて考察を述べる。

表1 「豊かな学び」に関する変容（n=25）4件法
有意確率**<0.01 *<0.05

	質問	事前	事後	有意確率
学習活動の充実	英語の学習で、相手の話す英語を注意深く聞き、相手の考えを理解しようとしたり、持っている知識などを使って相手に自分の考えを何とか伝えようとしたりしながら問題を解決しようとしている。	3.20	3.54	0.004**
	英語の学習のとき、様々な解決方法を試しながら、問題を解決しようとしている。	3.08	3.27	0.212
	英語の学習のとき、一人一人ができることを生かしながら、友達や先生と一緒に問題を解決しようとしている。	3.16	3.42	0.015*
成長の実感	英語の授業のとき、「分かるようになった」や「できるようになった」と感じる。	3.52	3.77	0.005**
	これまでに学んだことを生かして英語の学習に取り組んでいる。	3.52	3.50	1.070
	英語の学習で学んだことをこれからの学習や生活に生かそうとしている。	3.36	3.35	0.384

① 「豊かな学び」について

表1の「学習活動の充実」の項目において有意に向上が見られたのは、「英語の学習で、相手の話す英語を注意深く聞き、相手の考えを理解しようとしたり、持っている知識などを使って相手に自分の考えを何とか伝えようとしたりしながら問題を解決しようとしている」と「英語の学習のとき、一人一人ができることを生かしながら、友達や先生と一緒に問題を解決しようとしている」であった。

これは、研究の視点1による「御船町のよさや将来について自分の考えを友達に発表する」という学習課題が、児童にとって興味・関心のある題材であり、コミュニケーションの目的を明確に持って、試行錯誤しながらコミュニケーションを図った結果と考えられる。また、相手によりよく伝えるために、児童同士で助言し合ったり、書く活動を通して自分の考えを整理したりする場を設定したことも効果的であったと考える。

また、表1の「成長の実感」の項目において有意に向上が見られたのは、「英語の授業のとき、『分かるようになった』や『できるようになった』とを感じる」であった。研修の視点2による振り返りの視点の焦点化や、自己評価及び相互評価の工夫により、児童が自他の成長をより実感することができた結果であると推察される。

さらに、今回、英語を読んだり書いたりする活動

にスモールステップで取り組み、その学びの成果がミニポスターの作成に生かされたことも、児童が達成感を持つことにつながったと考える。

② 「未来の創り手」について

表2は、「未来の創り手」に関する変容について調査した質問紙調査の結果である。

表2 「未来の創り手」に関する変容 (n=35) 4件法
有意確率**<0.01 *<0.05

質問	事前	事後	有意確率
自分は、学校生活や学習を通して、自分自身が成長したと思う。	3.28	3.39	0.133
自分は、学校生活や学習を通して、周りの人が成長していると思う。	3.40	3.54	0.021 *
自分は、学校生活や学習を通して、周りの人から、成長を認められていると思う。	2.80	3.12	0.004 **
自分は学校生活や学習を通して学んだことをもとに、自分自身が主体的になったと思う。	2.88	3.15	0.016 *
自分は、周りの人が、学校生活や学習を通して学んだことをもとに主体的になったと思う。	3.08	3.35	0.016 *

質問紙調査では、全ての項目において平均値が上昇し、5項目中4項目で有意差が認められた。これは、研究の視点1により、自分たちが住む町のよさや将来の願いについて主体的に考え、地域の一員として御船町を見つめなおしたり、友達の御船町に対する考えのよさに気付いたりしたことによるものと考えられる。

また、単元末の自由記述による振り返り（表3）には、「みんないろいろな未来を考えていると思った。」「（発表内容を）理解してくれてうれしかった。」など、自他の学びや成長を認め合う姿を示す記述が見られた。さらに、「外国の人にも紹介したい。」「もっといろいろな言葉（英語）を知って紹介したい。」など、学んだことを実生活で生かしたいという意欲がうかがえる感想もあり、英語を学ぶ意義を児童に実感させることにつながる活動であったと考える。

表3 単元末の自由記述による振り返り

自由記述内容
英語で書いたり言ったりして、伝えることが楽しかった。みんないろいろな未来を考えていると思った。
御船町に必要なものをみんなに言えてよかった。そしてそれを理解してくれてうれしかった。
発表の時、分からないときがあったのでもっと練習をすればよかったと思った。もし話す機会があったら、外国の人にも紹介したい。
英語で外国の人に伝えられたないいなあと思うし、御船町の人にも英語で伝えられたらうれしい。
同じ場所を選んでいても、その理由が違っていてもよかった。もっといろいろな言葉を知って紹介したい。
自分の町を伝える時があったら使いたい。英語は役に立つなあと思て思ったし、それを生活に生かせる日があったらいいなと思った。

3 研究のまとめ

今回の研究における成果と課題について示す。

(1) 成果

今回の研究による取組は、「豊かな学び」として一定の成果が見られたと考える。

視点1の「見方・考え方」に着目した問いの工夫により、相手を理解しようとして聞いたり、相手に分かりやすく伝えようとしたりと試行錯誤しながらコミュニケーションを図ろうとする児童の変容が見られた。そのようなコミュニケーションの体験により、児童は自分の考えを広げたり、他者への理解を深めたりすることができ、コミュニケーションの楽しさや大切さを実感することにもつながった。

また、「聞くこと」「話すこと」に「読むこと」「書くこと」を関連させた単元構成を工夫したことで、児童の知的好奇心が高まり、一連の学習を通して自己の成長を実感することにもつながったことを確認できた。

(2) 課題

視点2「学びを実感する振り返りの工夫」については、「学んだことを生かす」ことについて変容がみられなかった。これは、今回、自分の考えを発表する対象が児童同士であり、使用する英語表現も限定的であったことが要因として考えられる。地域のことをあまりよく知らないALTに紹介するなど、話す必然性を高めたり、発表したことについて簡単に英語でやり取りをする場を設定したりすることで、これまでの学習経験が生かされ、児童自身がより学びを実感できる活動にすることができると思われる。

平成30年度から、小学校外国語教育は、新学習指導要領実施に向けて2年間の移行措置期間となる。今後、新たに導入される小学校外国語科の趣旨やねらいを十分に踏まえ、「聞くこと」「話すこと」に「読むこと」「書くこと」を加えた総合的・系統的な教科学習としての外国語科授業の在り方について研究を進め、引き続き本研究テーマに迫っていきたい。

《引用・参考文献》

- ・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 外国語編』
- ・文部科学省（2017）『We Can !』
- ・文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』